

アジア・太平洋研究センター主催，総合政策学部共催講演会

日時：2023年7月13日（木）

場所：南山大学 オンライン講演会

テーマ：回復基調の日韓関係——他分野の専門家が見る日韓関係——

報告者：金 瑋中（全南大学教授）

柳 在漢（全南大学教授）



金 瑋中氏



柳 在漢氏

韓国全南大学代表团（9名）をお招きし，代表团の中から金瑋中教授，柳在漢教授の2名にご講演いただいた。概要は以下の通り。

報告者：金瑋中（Kim Bong Joong）全南大学教授

日米韓の健康な未来に対する提言

5月の上旬，岸田日本総理が韓国を訪問した。日韓首脳会談後開かれた記者会見で岸田総理は「韓国と日本は米国の重要な同盟国」だと語った。日韓両国の指導者が厳しい国内状況の中にもありながらも，あえて米国を言及したのはなぜだろうか。

意図された発言なのか，ミスなのかは分からないが，岸田首相は米国のプレゼンス及びプレッシャーを間接的に認めたと行ってよい。

太平洋戦争中に米国と日本は互いに戦ったが，これまで170年間両国の関係は友好的だった。少なくとも両国国民が相手に持つ感情はおおむね友好的だ。これは世界史的に観て非常に例外的なことだ。太平洋戦争でお互い血を流したにもかかわらず両国は揺らぐことのない同盟になったのだ。

米韓関係も同じだ。第二次世界大戦以後，世界が冷戦体制に突入し，韓国では朝鮮戦争が勃発した。1871年米国と韓国には小規模の戦闘があったが，長年，米国にとっ

て韓国は「静かな朝の国」として関心外の存在だった。しかし、朝鮮戦争が全てを変えた。韓国はアジア太平洋で日本とともに米国にとって一番重要な同盟国になった。

米国と日本、米国と韓国の関係は揺るぎない。その背景には両国国民間の厚い信頼関係があった。だが、この三者の関係の一番の問題は韓国と日本の関係であり、日本の植民地統治時代に歴史的に刻み付けられた傷と、それによる「過去史」の問題が両国の関係正常化の一番の核心となる。何よりも両国の間には複雑な感情が絡んでいるため、一歩間違えれば更に悪化する可能性もある。

日韓関係の正常化のために米国の役割が大きいことは事実だ。だが、米国が日韓関係の難しさ、複雑な感情の機微を正確に理解できず、国際秩序の利害関係だけで関係正常化を進めようとするれば、状況はさらに厳しくなるだろう。場合によっては、米韓両国関係もこじれる可能性がある。

報告者はアメリカ史専攻者として歴史の大きな流れの中で日米関係を振り返り、細かくは日韓関係の正常化、大きくは日米韓の健全な未来に向けて、いかなる方策があるかについて検討した。

報告者：柳在漢（Ryu Jae Han）全南大学教授

文化交流と文化共存のアジア共同体：東アジア文化都市

2012年5月5日、韓国、日本、中国の文化長官会議で日中韓3ヵ国間文化多様性尊重という前提のもと、「東アジア意識、文化交流と融合、相手文化の理解」などの精神を実践するために東アジア文化都市を選定し、それに応じて文化交流行事を開催することに合意した。日中韓3ヵ国で東アジア文化都市に選ばれた都市は、現代芸術文化と伝統文化、そして多彩な生活文化に関わる様々な文化芸術イベントなどを実施することにした。

このように東アジア文化都市は文化と芸術を通じて東アジア内の相互理解と連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化を世界的に広く知らせることを目指している。その都市の観点から見ると、選定都市は都市だけの文化的アイデンティティをもとに文化芸術と創造産業、観光振興を推進することで都市の持続可能な発展を遂げる機会を持つようになった。

ここで注目すべき事実は、東アジア文化都市発議の趣旨が多様性（ローカル）と共通性（グローバル）に規定できる文化を通じて相互理解の手段として活用することである。過去の痛ましい歴史的傷の後に広がり、今も広がっている排他的民族主義は日中韓の連帯感を阻害する最も大きな要因となっている。

このような観点から、東アジア文化都市は日中韓の排他的民族主義とアジアの連帯

感の弱化による東アジアの危機を文化的に克服しようとする意思を込めた壮大なプロジェクトでなければならない。日中韓は東アジア文化都市という「文化交流と文化共存」を通じて地理的な葛藤と相違を克服する東アジア文化共同体（Culture Community）形成のプロジェクトを通して日中韓の文化の豊かさと多様性、そして共通の特徴を再度確認すると同時に、東アジア国家相互間の理解を深めなければならない。具体的に日中韓は東アジア文化都市プロジェクトを「ローカル」と「グローバル」の融合、つまり「ローカル」としての日中韓選定都市と「グローバル」としての東アジアとの関係を、政治と経済ではなく、文化領域における関係として融合させることが出来る機会を作らなければならない。

東アジア文化都市プロジェクトは、日中韓の文化的共感を形成、持続可能な文化発展をもたらし、相互信頼と平和構築の土台になるかもしれない。しかも世界の人々にアジアに対する理解とアジア固有の価値を発見させ、国際的な連帯創出を成し遂げる一歩になるかもしれない。国家間の観点からすると、国家的地位向上と文化発展モデルの創出、文化都市政策の促進も期待できる。選定都市は文化の基盤強化、人の交流、文化産業育成にも期待することができ、市民には文化の享有、暮らしの向上、文化的な潜在力向上、文化分野での雇用創出効果も期待できるだろう。

（文責：平岩 俊司）